

◎今週の御言葉 「あなたに何を与えようか、願え」(列王記第一3章4節～15節、コリント人への手紙第一15章35節～52節)「その夜、ギブオンで主は夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。『あなたに何を与えようか、願え。』」(3:5)「聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。」(15:52)

◎私達には夫々欠点や弱点があります。それを改めようとしても中々改まりません。自分の現実を素直に認め求めよう。

◎列王記はダビデ以降の王様の歴伝です。ダビデの後継者にはソロモンが選ばれ、任職の油を注がれました。ソロモンは神様から「あなたに何を与えようか、願え」との御声に、ダビデ王の偉大さと自分の未熟さを認めて「善悪を判断し、聞き分ける心を与えて下さい」と祈ったのです。

◎コリント第一15章は「死者の復活はない」(12)と主張する人々への論述です。最初にパウロは教会の拠り所である「福音」の内容を明示しています。これはパウロ自身が「受けたもの」であり、またパウロが「伝えたもの」です。それは「最も大切なこと」、特に、「**キリストの死**」「**葬り**」「**復活**」「**顕現**」の4つを伝えています。①「キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと」です。聖書全体からキリストの贖罪の死、そこにキリストの愛、神の愛、神の和解の出来事が明らかに示されています(6:20, ガラテヤ3:13, ロマ3:24, コリント②5:14, 18, ロマ5:5, 8, 10, イザヤ53:4, 5, 12, 申命記21:23)。②「葬られたこと」です。イエスの死が事実であることの確証です。③聖書に従って三日目に「よみがえられたこと」です。イエスの死が仮死ではなく、蘇生でもなく、死人の甦りであり、しかも今も生きておられるのです。④「ケパに、12弟子に、500人に同時に、主の兄弟ヤコブに(使徒15:13, ガラテヤ1:19, 2:9-12)、また月足らずの者にも現れた」と告白しています。この「復活の主との出会い」により新しい業が成就したのです。更にパウロは、もし「キリストの復活がなかったら」「福音宣教は偽り」となり、「キリスト信仰は意味が無くなり」「キリスト者は未来に希望のない者となる」と語るのです。そして偶像信仰に囚われ、罪の中にもいることになり、キリストにあって眠った人々は「滅んでしまった」ことになるのです。しかもこの世の生活にしか望みのない、すべての人々の中で最も惨めな存在となってしまうと告げています。キリストの復活はキリスト者の復活の原型であり、キリスト者全体の復活の代表でもあります。復活の順序は最初にキリスト、次にキリストの再臨時の信者、最後に、千年王国におけるすべての者の復活です。